

磐城調査新報

發行日隨時
編輯部 磐城郡平野
印刷部 磐城郡平野
電話 三一六番
新開定額
一月十元 三月廿元 半年廿元 一年四十元

期日切迫と共に 白熱化する縣議戰

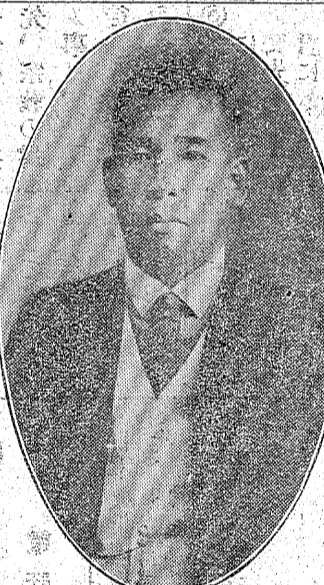
互に負られぬ政民兩黨 中立も入れ十一名の混戦

石城郡下の縣議戰は本月三日付の地盤の元に、金権を網羅して縣の告示と共に前消戰の火蓋は憲政會の一指に掛る。待たぬと許り切つて落されたるものであつたが、普通運動のたゞこれより先き政民兩黨に於ては各々豫選會を開き普選第一の榮冠を擔ふに、自他共ゆる一流の猛者を物色し、政友會に於ては山崎吉平、古川傳一、鈴木辰三、井上茂作の四氏を公認候補と決定した。民政黨に於ては慎重審議のついでに野崎滿藏したる程なれば、今回の縣議戰若松美三、驚清昇の三氏を公認に就いても政友會は大なる決心候補者なし。一方政友會は本を要するものとして、周到なる部より應援辯士を呼んで聚樂館作戦を重ね、しかも我黨天下の旗を振り出しに四ツ倉、小名濱と威勢の下に一舉にして民政黨を戦前の示威運動をなせば、民政黨も又中野正剛初め自黨の大頭來年の總選挙の血祭にせんとし、株及び石城郡出身の比佐代議士迄來郡して議會報告の名の元に自黨の普選第一回戰には是非來郡して縣議戰の準備行動なども自黨の勝利を期せざるは非難の途なき。其間三坂出身の若松美三、中産階級以下の田手健吉及び五大炭礦の應援新興力を唯一の力として黨勢のあつた。青沼鋒太郎氏は共消長此の一戰にあり、玉碎主義に中立なる風色の旗印を元にしての猛運動を試みべく、巨象搏た意を固め、戦前すでに石城の天を、が猛虎倒るゝかの血戰は蓋地は縣議戰のいかに猛烈なるかし、壯烈の極みであらう。

普選の功勞者を落すなど 苦戰の野崎氏に 同情の聲わく

結局は當選圈内か

戦前の下馬評を裏切つて、最近肉体的に、將た物質的に普選法苦戰を喰されてゐる野崎滿藏氏實施に付き貢献したる事は、人も知る石城民政黨屈指の將として又永い間の同黨幹部として黨勢を今日の如くに導きたる功勞者の一人なるが、こと大正九年、第四十二議會に於て初めて普選案が上提され、東京芝山王臺上に普選即時断行の國民大會の烽火が打ち上げられて以來、常に普選運動の第一戰に馳驅して、無産大衆の爲め目覚しき奮闘を持續し、第五十議會に於て該法案が國民輿論の歸趨として兩院を通過する迄、代議士比佐昌平氏と共に双壁と云ふべきであらう。のみならず、氏は大正十四年町議改選際、手も日々蠶食されて少ならぬ痛手を感じ、内郷方面は青沼候補の優勢に壓迫



野崎滿藏氏

満二十歳まで 選舉權を與へよ

野崎氏の意見

十六日平劇場に於ける野崎滿藏氏政見發表演説會は非常なる盛況であつた。四家、猪狩、萩原氏等の熱辯の後を受け候補者野崎氏が吉田壽三郎氏の紹介によつて壇上に立てば、熱狂せる聴衆は野崎候補萬歳を連呼して止まず。氏は徐ろに約四分に渉つて農漁村の振興、勞資協調、教育機關の改善の三問題等、就中最も聴衆の共鳴を得たる点を要記すれば、
普選運動に就きましては或時選してより、從來情氣滿々の内に始終してあつた平町會に萩原、吉田(五)佐藤の民政黨員諸士と共に臨み、一流の至誠、剛直を以つて議場に獅子吼して開會ごと議場に大なる緊張と活氣を添へたる事は世人の等しく

- #### 開票區分
- 郡内開票區分左の如し。
▲平開票區 平、四倉、飯野、夏井、高久、豊間、鹿島、内郷、好間、神谷、草野、大浦、植田開票區 湯本、勿來、植田、小名濱、江名、錦、泉、渡邊、上遠野、入遠野、山田、川部、田人、玉川、磐崎、下小川開票區 赤井、大野、平窪、箕輪、永戸、小川、三阪、澤波、川前

せん、細部に涉つても種々意見があり、第一現在年二十五歳以上としてゐるのを非二十歳以上と改めねばならぬものと確信致します。普選の主なる目的は國民全部に參政權を與へ選舉界の革新を期する点にあるのであり、一人前の人間として認められ、又兵役の一大義務を擔う所の満二十歳以上のものに國民の當然なる権利である選舉權を與へぬことは、事には不合理千萬に依りましては満二十歳では意志が堅固でない、思慮分別が淺薄だと稱するものあり、股肱として國防の大任を背負つて立つ人々を指して斯くの如き言をなすは論外であつて、寧ろ不謹慎と云はねばならぬと思つ次第であります。云々

